

(参考様式5;HP公開様式)

(提出必要)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

- 1 題目: ユニバーサルスポーツ(スケートボード・パラスポーツ)を活用した
未来に繋がる街づくり

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派 : 自由民主党・政風やまなし 氏名 : 中村正仁
調査内容	1 調査目的 ○ 本県の行政課題である人口減少対策、都市計画の推進、観光・スポーツの振興、更には多様性社会やユニバーサル社会の実現などの分野について課題解決に繋がる取り組みを行っている地方自治体や民間企業等が実施する事業について、視察・調査・意見交換を行い、本県の施策に活かしていく。 そして、県民ひとり一人が豊かさを実感できる山梨づくりの実現に向け、各分野に精通している団体との連携を強化し、様々な課題解決に繋げていく。 2 調査テーマ ○ スポーツ振興 ○ ユニバーサル社会の推進 ○ 都市計画の推進 3 調査期間 令和7年3月27日 ~ 令和7年3月28日 (1泊2日) 4 調査地[海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] ○ 愛知県 名古屋市 5 その他

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

[調査テーマ] ○ スポーツ振興 ○ 都市計画の推進	[調査項目] ○ スケートボードを活かした地域活性化について [選定理由] ○ 本県の重要課題である人口減少対策の一つとして、住みやすい街づくり、住みたくなる街づくりの整備が必要である。現在、本県ではリニア開通に向けた道路整備や都市計画事業、新山梨環状道路ひいては富士トラム構想など未来に繋がる街づくり計画が進められている。2020東京オリンピックを機に若者を中心に人気が高まったスケートボードは新たな街づくりの土台となりうるものと考えられる。その一方、街中で無秩序に滑り、歩行者との接触事故や公共物を損壊するなどトラブルの要因となっている。 これらの課題解決に向け、スポーツを活かした地域活性化事業を進める必要があり、ひいては人口減少対策と新たな都市計画づくりに繋がるものと考え選定した。 [調査結果の活用方針] ○ 本県の未来を担う若者のニーズに応える街づくりを進めるとともに7年後の2032年本県で開催が予定されている国民スポーツ大会の機運醸成など本県のスポーツ振興にも繋げる。
[調査テーマ] ○ ユニバーサル社会の推進	[調査項目] ○ 障害者スポーツセンターの活用及びパラスポーツへの取り組みについて [選定理由] ○ ユニバーサル社会の実現に向けた取り組みは現在、社会全体で進められている重要な課題である。中でも、パラスポーツを活かした取り組みは今後更に高まっていくことが期待される。全国に先駆けた取り組みを本県が進めれば人口減少対策をはじめとする様々な課題解決に繋がる可能性があると考え、選定した。 [調査結果の活用方針] ○ ユニバーサル社会の先進的な取り組みを進めている地方自治体の施策や支援制度、課題等を調査・研究し、本県の多様性社会の実現、スポーツの振興に反映していく。

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市名・施設名・担当者名及び選定理由
○ スケートボードPARK を活用したスポーツの振 興 について	[都市(市町村)名・施設名・担当者名] (1) 愛知県名古屋市中区大須3-1 若宮大通公園スケートボードPARK (2) 愛知県名古屋市中区大須3-6-4 第一アセットビル4F南SKATE SHOP CRUISEERS (代表) [選定理由] ○ 県では小瀬スポーツ公園にスケートボード優先エリアを設けた。一方、甲府市ではスケートボードの使用を制限する条例改正を施行し、甲府駅北口周辺でのスケートボードの使用を禁止とした。名古屋市は中心街大須地区に公共スケートボードを開設し、拠点を整備した他、新たにリニューアルし、スケートボードの普及、利用者ニーズに応じている。先進的に取り組んでいる名古屋市の現況について調査し県政に活かしたと考え選定した。
○ ユニバーサル社会の 推進	[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 愛知県名古屋市名東区勢子坊2-1501 名古屋市障害者スポーツセンター (スポーツ振興部スポーツ事業課) [選定理由] ○ 名古屋市障害者スポーツセンターは昭和56年に開設され、大阪市長居障害者スポーツセンターに次ぐ国内2番目に整備された施設であり、先進的な取り組みを実施している。同施設の取り組みが本県パラスポーツセンターの機能を更に高めることが期待されると考え、選定した。
○ 都市計画の推進	[都市(市町村)名・施設名・担当者名] 愛知県名古屋市中区千代田1-5-8 愛知県名古屋市中土木事務所 (所長補佐) [選定理由] ○ 名古屋市中心街をはしる名古屋高速2号東山線は名古屋駅地区と同等に栄地区を活性化させるため、今後更に高規格道路としての機能が期待される都心環状線である。また、高架道路として高架下には若宮大通公園が整備され、スポーツ施設やイベントスペースなど市民の憩いの場、地域コミュニティー形成に活用されている。本県においても現在、新山梨環状道路を整備しており、名古屋市の取り組みを参考事例にすることが得策と考え、選定した。

5 調査内容

○調査テーマ：(スポーツの振興)

調査項目	スケートボードPARKを活用したスポーツの振興について		
調査都市等	愛知県名古屋市	調査日	令和7年3月27日
調査結果概要	○ 名古屋市中心街にある若宮大通公園スケートボードPARKは名古屋高速2号東山線の高架下であり、荒天時でも気軽に誰でも利用ができ、ウエーブバンクをはじめとする設備が充実しており、若者を中心としたスケートボーダーの聖地として大変ニーズの高い施設であった。現地に訪問した際も、20人ほどの利用者がおり各々の技を磨いていた。利用されていた方(高校生グループ)から利用についての感想を聞いたところ、とても良い施設で、定期的に利用しているとのことであった。また、同公園近くでスケートボードショップをされ、ご自身も施設を利用しながら指導者としてもご活躍されていSKATESHOP CRUISEERS 代表との意見交換では利用者の声を聞いた上で、セクションを取り付けてくれた市に対して感謝しているとともに県外からも利用したいと訪れる方も多いとのことであった。 一方、周辺のマナーの悪さも気になり、ゴミの散乱、セクションや看板への落書きなどについても目についた。この点についてお聞きしたところ、未成年者がアメリカのスラム街のイメージを持ってしまい、スケートボードに対する誤ったイメージを持ってしまっていることが問題であり、しっかりとした教育が必要だと話された。この点については、30歳から40歳の有志のメンバーが定期的に清掃をし、マナー向上への啓発活動等をボランティアで行っているとのことであった。本県においても、県スケートボード協会を中心にスケートボードの普及に合わせ、利用上のルールやマナーの徹底を進めていただくことが重要である。行政においてもスケートボードを推進している富士川町をはじめとする市町村と連携を図り利用者目線で利用者の声を可能な限り聞き入れていけるよう努めてほしい。2032年本県開催予定の国民スポーツ大会でもスケートボードをデモンストレーション競技などで実施し、全国に本県の取り組みを広げ、若者に人気の街づくりとなるよう私自身も更に調査研究を行い、知識を高め、今後の県政に活かしていく。		

○調査テーマ：(ユニバーサル社会の推進)

調査項目	障害者スポーツセンターの活用及びパラスポーツへの取り組みについて		
調査都市等	愛知県名古屋市	調査日	令和7年3月28日
調査結果概要	○ 東京2020パラリンピック競技大会開催を機に国内でのパラスポーツに対する注目度が高まった。また、名古屋市は2026年に第5回アジアパラ競技大会が開催されるなど、全国的にもユニバーサルスポーツが推進されていると感じた。更に市障害者スポーツセンターは、昭和56年に開設され、プールやトレーニングルーム、サウンドテーブルテニス、車いすバスケット用の車いすの常備など様々な設備、備品が整備されており、スタッフも指導者から理学療法士や看護師、更にはソーシャルワーカーまで常駐するなど大変先進的な取り組みをされていた。更に、指定管理者である(財)名古屋市総合リハビリテーション事業団の組織力は高く、関係団体との研修会や各種指導員養成講習、出前授業なども積極的に実施されていた。 現在、同センターの老朽化が課題となっており、施設整備に向けた「新たな障害者スポーツセンター整備検討基礎調査」が進んでいるとのことであった。 令和7年3月に本県に開設した「山梨県立やまなしパラスポーツセンター」を効率かつ効果的に活用できるよう指定管理者の(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブや県障害者スポーツ協会など関係機関と連携を図り、より一層ユニバーサルスポーツの普及、強化させていく。また、2032年本県開催の全国障害者スポーツ大会が盛況に開催できるよう、今後も研究・調査を行っていく。		

○調査テーマ：(都市計画の推進)

調査項目	環状線高架下を活用した街づくりの取り組みについて		
調査都市等	愛知県名古屋市	調査日	令和7年3月28日
調査結果概要	○ 本県では現在、新山梨環状道路の甲府市落合ICー甲府市桜井区間の道路整備が着々と進んでいる。また、この区間を繋ぐ笛吹市石和町小石和付近は盛土と高架橋を活用する形で5年後の2030年開通に向け整備が進んでいる。今回選定した若宮大通公園は名古屋高速2号東山線の高架下に作られ、若者を中心としたスケートボードPARKやフットサル場、テニスコートなどが整備されている。中でもスケートボードPARKは全国的にも大変人気のスポットとなっており、令和7年1月から施設拡張を含めた改修計画が始まり、随時工事が進められていた。元々は遊具が設置された公園であったが、ホームレスが滞在し、治安が悪いなどの問題が発生していたが、高架橋の耐震工事が始まったことを機にスケートボードをはじめとするスポーツ施設が整備された。この際、ホームレスが滞りしないよう、公園周辺をフェンスで囲い夜間9:00以降は施錠する管理方式とした。 スケートボードPARKにした経緯としては、街中での歩行者との接触事故や器物損壊などのトラブルが発生したほか、騒音による苦情が多かったことから拠点を整備しトラブル解消に繋がれた。また、同公園は4車線道路に挟まれており、自動車のエンジン音等でスケートボードによる騒音が消されるため、近隣からの苦情はなく、繁華街の方からは感謝の声があるとのことであった。 一方、ゴミのポイ捨てなどの利用者のマナーの悪さが指摘される中、スケートボード利用者の有志メンバーと協力し清掃後のごみ処理や清掃用具の提供など利用者とのコミュニケーションも図れているとのことであった。 今回の調査から、本県においても環状線の高架下の活用としてスケートボードPARKやテニス場、ドックラン、防災用倉庫の設置など様々な案を多くの県民から聞き取り、新しい街づくり、若者が住みたいと思える街づくり整備に繋がれるよう推進していくことが重要だと考える。 今回の調査で得た知見を参考に、本会議での質問や委員会の質疑等を通じて未来に繋がる魅力ある街づくりについて政策提言を行い、本県の更なる都市計画の推進に取り組んでいく。		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
中村正仁	○ 今回の政務調査を通じて得られた知見の数々は、今後の議会活動において、先進的な取り組み事例や現地を視察して気付いたこと等として提案するなど、未来に繋がる県土整備、県民サービスの向上に寄与できるよう活用していく。引き続き、本県の実情に合わせた行政事業の柔軟な運用が行われるよう、県民の代表として研鑽を積んでいく。 また、今回の成果を、本会議での一般質問、常任委員会・特別委員会での審議、条例案作成委員会・政策提言案作成委員会における意見等に反映できるよう、今後も調査・研究を進め、本県の発展と県民生活の向上につなげていく。

※調査テーマ毎に作成

6 調査状況(写真)

○令和7年3月27日～28日

調査先(愛知県名古屋市

)



(コメント)

○ 愛知県名古屋市若宮大通公園スケートボードPARKにおいて、現地調査を行った後、施設利用者との意見交換を行った。



(コメント)

○ 名古屋市障害者スポーツセンターにおいて、障害者スポーツセンターの活用及びパラスポーツへの取り組みについて聞き取り調査を行った。



(コメント)

○ 愛知県名古屋市中土木事務所において、環状線高架下を活用した街づくりの取り組みについて聞き取り調査を行った。